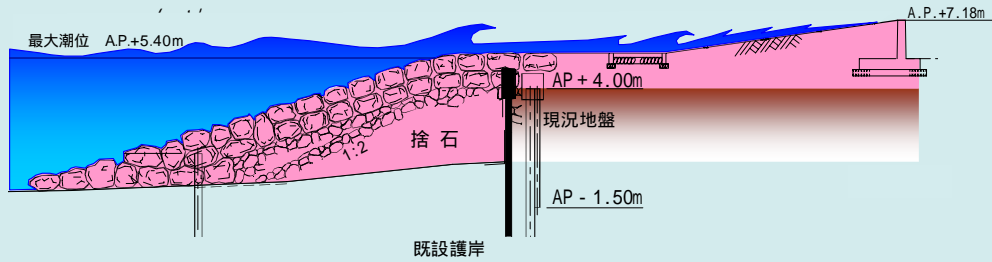


4. 工事から1年後の検証・評価

モニタリング調査結果 < 工事から1年後の検証・評価 >

工事から1年後の検証・評価<防護>

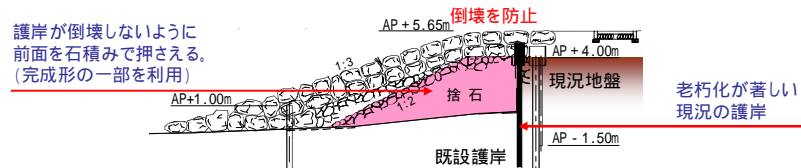


平成19年11月

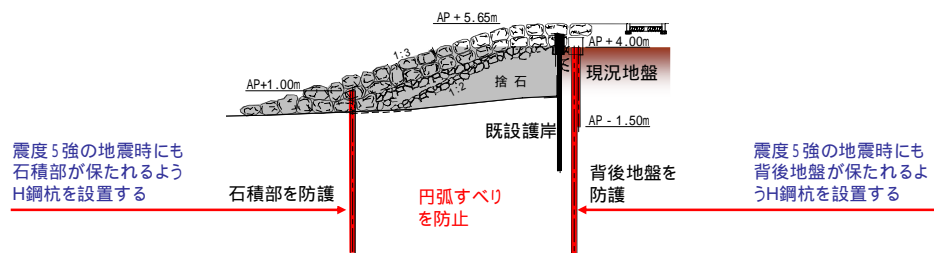
27

1. “防護”に対する4つの指標

”緊急対応”への指標 : 既設護岸の補強に必要な石積が確保されたか。
老朽化した現在の護岸の倒壊防止を図る。



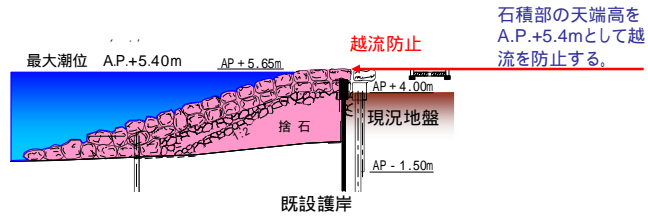
”耐震”への指標 : H鋼杭(海側、陸側)が打設されたか。
震度5強の地震時にも石積部が保たれるようH鋼杭を設置する。
” 背後地盤が ”



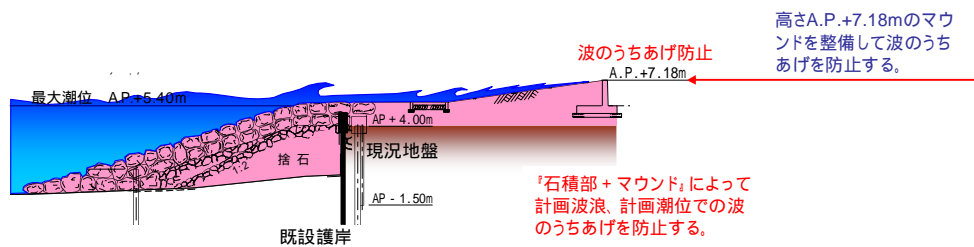
28

最大潮位での"越流防止"への指標

： 石積堤の高さがA.P.+5.4mに達しているか。
A.P.+5.4mに達する最大潮位でも越流しない高さの護岸とする。



"高潮災害防止"への指標： 背後地のマウンド高さがA.P.+7.18mに達しているか。
高潮時にも波が背後地に及ばないようA.P.+7.18mの高さのマウンドを護岸背後に整備する。



2. 検証基準

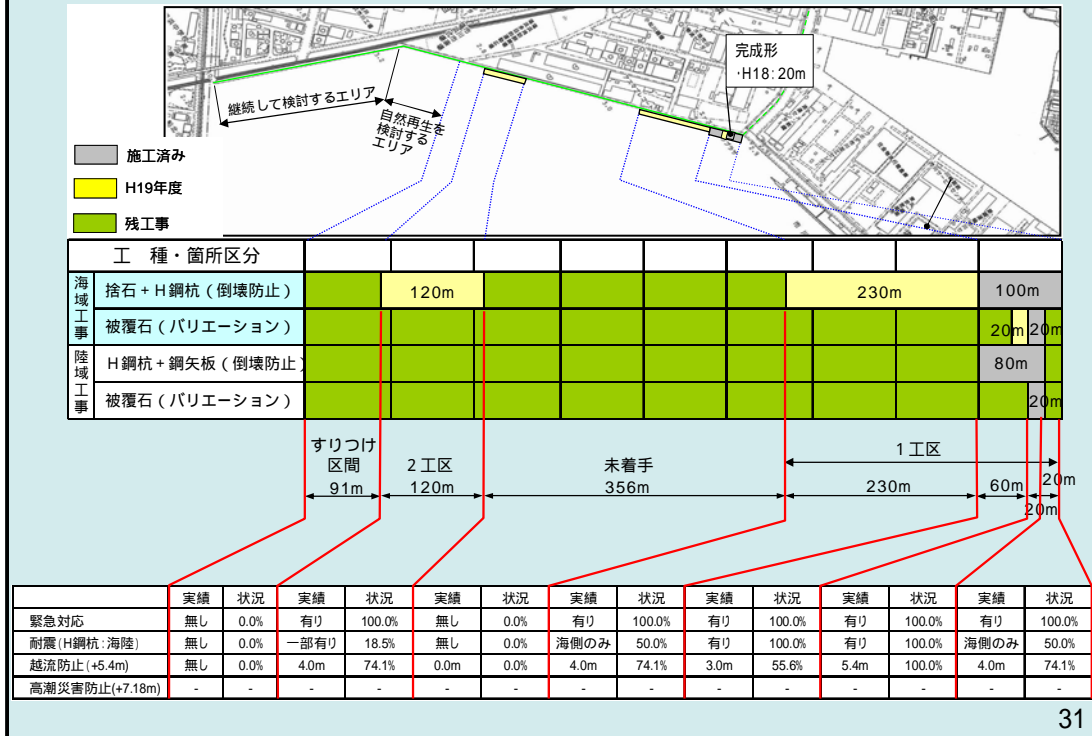
目標達成基準

高潮等の災害から背後地の安全を早期に確保すること。

検証項目	目標達成時期	検証場所	基準とする値
防護の確保状況	平成22年度頃	塩浜2丁目	地域の防護に対する4つ指標がそれぞれ施工延長900mにわたって、 緊急対応への指標 100% 耐震の指標 100% 越流防止への指標 100% 高潮災害防止への指標 - を確保すること。

注) のA.P.+7.18mまでの背後地の高さの確保は、後背地の街づくりと調整中であるため、数値目標は設定しない。

3. H19年度工事の検証結果(工区ごと)



4. H19年度工事の検証結果(指標ごと)

"緊急対応"への指標 : 既設護岸の補強に必要な石積が確保されたか。
老朽化した現在の護岸の倒壊防止を図る。 **50 / 100**

"耐震"への指標 : H鋼杭(海側、陸側)が打設されたか。
震度5強の地震時にも石積部が保たれるようH鋼杭を設置する。
" 背後地盤が " 。 **25 / 100**

最大潮位での"越流防止"への指標
: 石積堤の高さがA.P.+5.4mに達しているか。
A.P.+5.4mに達する最大潮位でも越流しない高さの護岸とする。 **37 / 100**

"高潮災害防止"への指標 : 背後地のマウンド高さがA.P.+7.18mに達しているか。
高潮時にも波が背後地に及ばないようA.P.+7.18mの高さの
マウンドを護岸背後に整備する。 **後背地との調整中**

5. H19年度工事の評価

目標達成基準	高潮等の災害から背後地の安全を早期に確保すること。	
↓		
検証結果	"緊急対応"への指標 "耐震"への指標 最大潮位での"越流防止"への指標 "高潮災害防止"への指標	50 / 100 (11 / 100) 25 / 100 (10 / 100) 37 / 100 (8 / 100) 背後地の街づくりと調整中
注)カッコ内はH18年度		
↓		
防護の評価	・H18年度に対する数値は大きく向上している(最大で4.8倍)。 ・目標達成年(H22年度頃)までの達成を考え、効率的で効果的な工事の進め方について、周辺環境に配慮しつつ検討していく必要がある。 ・“高潮災害防止”への指標についても、早急に背後地の街づくり計画との調整を進め、高潮災害に対する地域の安全確保を図る必要がある。	

33

参考. H20年度実施計画(案)での達成見込

項目	目標値 (%)	H18	H19	H20		
				1案	2案	3案
"緊急対応"への指標	100	11	50	90	90	90
"耐震"への指標	100	10	25	70	64	66
最大潮位での"越流防止"への指標	100	8	37	66	69	69
"高潮災害防止"への指標	-	-	-	-	-	-

注1) H20年度

- 1案 : 完成形なし案
- 2案 : 完成形100m案
- 3案 : 完成形 40m案

注2) の指標については
背後地の街づくりと調整中

34